

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム 榎内

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200202		
法人名	有限会社 川崎タクシー		
事業所名	グループホーム 榎内		
所在地	〒027-0331 岩手県宮古市田老字西向山119-16		
自己評価作成日	年月日	評価結果市町村受理日	令和4年6月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が安心して、ゆったりと過ごすことのできる空間や雰囲気づくりに心がけている。高台にあり景色もよくホームの周りには、野生のシカやリス、きじなどを見ることが出来る。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、元々リゾート施設のあった場所に立地しており、海の眺望が利き、木々に囲まれていて、季節を強く感じることのできる環境にある。建物も共用空間が太い木の柱や梁が見える吹き抜けになっており、明るく快適な居住環境が保たれている。事業所の理念に掲げる「ひとりの心を見つめるケア」の姿勢が職員に浸透しており、普段の生活から看取りを迎えるまでの継続した丁寧なケアが利用者や家族の安心につながっている。特に、毎月、事業所から家族へ届けられる「お手紙」は、利用者一人一人ごとに作成され、担当者の文章とともに、利用者の写真で飾られ、利用者の日頃の生活の様子が手に取るように理解できるものとなっている。現在はコロナ禍で外出支援などが思うように実施できない状況にあるが、管理者をはじめとする職員は事業所の立地環境を活かした工夫をすることにより、改善につなげたい思いを持っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号		
訪問調査日	令和4年4月14日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・利用者が安全、安心して過ごせる場所を心がけています。 ・利用者様個々にその人らしさを大切にしたい支援を目指します。	創設者の思いが込められた 法人の理念「ひとりの心を見つめるケア」を具体的に実践するために、運営推進会議の意見を取り入れて4項目の基本方針が定められている。職員は理念と基本方針をよく理解しており、利用者への接し方に生かし、利用者一人一人に合わせたケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	田老第一中学校の廃品回収にアルミ缶を供しています。	前回の外部評価で期待されていた 地域との交流促進については、目標達成計画を立てて取り組み、町内会へ加入し、地域の情報が得られるようになった。しかし、昨今のコロナ禍により地域の行事等への参加が困難になっている。東日本大震災による仮設住宅が近隣にあった時期には、サンマを焼いて提供して地域との交流をしたこともあるので、コロナ禍後に向けてできることを模索している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ拡大予防以前は、宮古木曜会(合唱コンクール)、田老第一中学校吹奏楽部訪問による交流を図っていた。 小、中学校文化祭の案内もお話ありました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在コロナ拡大予防により2か月に1度開催されていた会議は中止となっていますが、利用者状況、事故報告、月間行事など報告、意見、アドバイス頂いていた。	現在、コロナ禍で運営推進会議を開催することができない状態が続いている。	運営推進会議の開催について、参集開催が困難であれば、少なくとも書面での開催を検討することを期待します。この場合、資料を配布するだけでなく、課題事項を明らかにするとともに、意見などを記載できる様式と返信用封筒も添えることにより、意見や助言を得やすくすることも期待されます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に毎回参加アドバイスをいただいております。	運営推進会議が開催されていないので、会議での市担当者との情報交換は行われていない状況にあるものの、市の介護保険課や福祉課、地域包括支援センターとは、コロナへの対応を含め、様々な相談で訪問して助言をいただくなど、緊密な連携を築いている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 椋内

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会により3か月に1度2つの施設で情報の共有を行い、議事録作成、職員会議でも話している。	身体拘束委員会については、系列の他施設とともに、施設の管理者会議後に開催している。メンバーが管理者など内部の者だけであることから、外部からの意見をいただくためにも、管理者会議と切り離して実施することを考えている。職員の取り組みとしては、特に否定的な言葉遣いなどには常に注意を払い、その都度、職員同士でアドバイスしながらケアにあたっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会で取り決め、周知する流れとなっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月の職員会議の中で研修を行っているが、職員会議自体が開催されていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご家族様に契約の内容の説明を行い、納得いただき契約書の署名をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の状況など毎月、写真入りのお手紙を送付して、意見要望等があればいつでも連絡を頂くようしている。	現在は、コロナ禍で利用者と家族の面会ができない状況であり、来訪する家族から直接意見や要望を聞く機会は少ないが、家族には、毎月、利用者一人一人の様子を写真付きの「お手紙」で伝える取り組みを行っており、「お手紙」を見て、家族から電話などで感謝の言葉をいただくことがある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に意見や提案をきき反映させている。	管理者は、朝夕の申し送り時や日頃の業務の中で、職員が気付いた利用者の変化や、業務に関わる改善意見などを聞いている。また、職員は、利用者の状況をタブレットに入力し、これを管理者とケアマネージャーも確認、共有し、適切な個別ケアに繋げるとともに、サービスの質向上に反映させるようにしている。	現在は、コロナ禍により職員会議を開催していない状況にありますが、職員の意見、要望を聞く機会でもあることから、定期的を開催することを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月、希望休を確認して職員の得意、不得意なシフトを把握し出来る限り負担の軽減を図りながらシフトの作成に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナで研修は見送っている。 毎月行われる管理者会議も状況を見ながらオンラインでのリモート会議の実施を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議には近隣のグループホームにも案内して出席していただいている。 先方会議にも職員交代しながら参加させていただき情報交換をさせていただいている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時、利用者様の立場になり不安にならないようにやさしく声がけを行い、困っていることを何でも話せるような雰囲気づくりに心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安、困っていることどのような生活をしてきたかなど傾聴して関係性の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今まで困ってきたこと傾聴しながら少しずつ信頼関係を気付いていけるよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に家事を行っている意欲的に取り組まれている。		

事業所名 : グループホーム 椋内

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月一度のお手紙に通院報告、日常、イベント写真をたくさん添えています。 物品で必要なものがある場合電話で相談しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様が行ってみたい場所食べたいものなどききながら外食をしていました。 通院時に知人と偶然会ったとき懐かしがっておりました。	コロナ禍で、通院以外の外出については控えている状況にあり、家族との面会も通院時だけとなっている。馴染みの関係継続は大切との認識はあり、コロナ禍が早期に収まらないかその状況を見守っている。	利用者の馴染みの人、特に家族との関係継続を維持するため、電話、手紙、オンライン面会など、コロナ禍の中でも支援できることはいろいろ試みるよう期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々ホール内での利用者様の様子観察を行い、気の合った利用者様同士が近くに座るなど配置の部分でも考え楽しく過ごせるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了したご家族様が畠で収穫した野菜を持ってきてくださり最近のご様子などお話ししている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の思いなど、日々の会話で問いかけ、把握に努めている。動物を飼っていた利用者様には動物関連の番組を録画してもらい楽しんでいただいている。	理念にあるとおり、一人一人の思いを大切にすることを心掛けており、入居の際の意向確認を入念にするとともに、日頃の会話や行動から把握に努めている。動物飼育の経験があった利用者からは、動物の録画番組が好評を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	農家だった利用者様からアドバイスしてもらい、小さい、畑やプランターで花や野菜を育て楽しんでいただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態の把握を行うことにより心身の変化に対応できるようにしている。		

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム 檜内

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が関係者からの情報集と実施状況の把握して記入している。	介護計画の見直しは3ヵ月又は6ヵ月ごとに行っており、計画作成責任者が、タブレットに収められている利用者の個別の変化等の情報や居室担当者からの情報を聴取のうえ、モニタリングをして計画作成に臨んでいる。また、医師や週2回来訪する訪問看護の看護師からも助言をいただき、リハビリの取り組みなども積極的に取り入れている。家族には主に電話で説明して意見をいただいている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアによっての影響や反応を個別に記入し状態の変化により計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症が流行、感染対策のためがいしゆつの機会が減ったため畑やウッドデッキにて野菜やお花を育てたりと自然に触れあえるように努めた。利用者様と水やりや収穫もし、野菜を食事に提供することが出来た。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	感染流行のため、主治医と相談して薬の処方も多くしていただいたり電話診療など感染の状況によって臨機応変に対応している。病院をやむおえずなく変えなければならない場合は、器量機関、ご家族様双方に失礼の内容に対応している。	協力病院は県立宮古病院であるが、かかりつけ医は入居前からのかかりつけ医や希望する医療機関としている。通院は原則的に職員が同行しており、受診結果を家族に報告している。家族が受診同行した際は、家族から受診結果を聞き、情報を共有している。週2回来訪する看護師とも連携して、適時適切な受診ができるよう支援している。	

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム 椋内

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションによるケアサービスが1週間に2回1時間ずつ支援が行われている。健康管理や、皮膚状態の確認、レクリエーション、体操など状態に応じたケアを看護師と相談しながら行っている。いりよ行為になる処置は看護師に一任している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は医療機関へ、利用者様の状態をわかりやすく簡潔にお伝えし、スムーズな処置を行うことが出来るように取り組んでいる。退院時には利用者様の状態を把握して、期初時には適切なケアが行われるように支援している。退院が難しい場合は地域連携室と相談の上、転院や他施設への手配を依頼している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	臥床位の状態が多くなったり、食事の摂取量が減量したりと変化が見られた場合、施設長ケアマネジャーへの報告を行い、医療機関の受診や訪問診療の体制を整え終末期のケアへと移行している。ご家族様の終末期の理解をさらに深める為話し合いがしっかり設けられている。急変時には、訪問看護師との連携を得てからご家族様へ連絡がいき双方穏やかな最期を迎えられるように支援している。	契約時に終末期に関する方針を説明しているが、実際に重度化が現実化してくる段階で、詳細に説明して家族から意見を伺い、看取りを希望する場合は、穏やかな最期を迎えられるように最善を尽くしている。万が一の場合には田老診療所の医師に駆けつけてもらうこととしており、普段からの医療との連携に努めている。これまでに複数回の看取り経験があるが、職員の取り組み方などに特に注意を払い、その後のメンタルにも配慮している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護に24時間相談できる体制指示対応していただいている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	令和3年3月11日と避難訓練行っている。令和4年1月16日かのん小規模多機能センターの利用者様と職員津波警報のため当施設に避難されている。	令和3年は、3月と11月に日中の災害想定で避難訓練を行っている。今年1月には津波警報が発令されたが、当事業所は安全な場所にあるため、他の事業所の利用者や職員が当事業所に避難してきた。災害発生時に備えて食料や飲料水、暖房機器などの準備はできている。前回の外部評価で期待されていた地域住民からの支援を得るための検討については、目標達成計画を立てて取り組むことにしていたが、コロナ禍ということもあって取り組めていない。	運営推進会議や自治会の集まり等で、災害時における地域との協力体制を築くための方法や支援の内容について具体的に話し合うことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で利用者様の情報交換を行っており、一人一人にあった対応をしている。	職員は、事業所の理念である「ひとりの心を見つめるケア」と、基本方針の中の「利用者の尊重」の実践に向けて、朝夕の申し送りなどで利用者様の情報の共有を徹底し、人格を尊重した対応に心掛けてケアにあたっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃からコミュニケーションを図り、個人計画に取り入れたりレクリエーションを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様に合わせた生活が出来るように行っている。声かけを行い選択しを設け自己主張の機会を作っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	3か月に1回ホームに床屋さんが来所され髪を切っていただいている。本人が期待衣類を選んできていただくようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みになったお食事の提供を心がけている。盛り付け、後片付けを一緒にしていただいている。	食事は職員が調理していて、利用者が食べたいものの希望をできるだけ聞き入れるようにしている。また、苦手なものの場合には違うものが提供できるよう柔軟な対応ができています。コロナ禍で利用者と一緒に買い出しは難しいが、行事食のちらし寿司では、酢飯づくり、盛り付けなど利用者も一緒に楽しみながら調理に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	身体の変化や機能に応じた食事量、とろみ付き刻み食、ブレンダーを使い介護食を召し上がっていただいている。さらに主治医より栄養、補助食品を処方していただく、経口補水液を凍らせ口に含んでいただく、ムースやペースト状にするなどし、咀嚼や嚥下の様子を見ながら支援介助している。		



令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 檜内

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日々の口腔ケア支援と定期的なケア用品の消毒と口腔内点検も行っている。また、かむ、意識的な飲み込みや会話、十分な水分の補給による口腔内の機能向上となるように心がけている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々への排泄パターンに合わせての声かけ、トイレ誘導介助を行っている。できない部分の介助せかすことのないようにしている。	利用者の日頃の状況を見て排泄時間の目安の表を作成しており、様子を見て、急がずこの無いように配慮しながらトイレへの誘導介助を行っている。利用者のうち2名が自立している。夜間には、睡眠を重視し、無理に起こして誘導することはしていない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を促しながらそれぞれの主治医または訪問看護師との連携を密にして体調等にあった排便を促すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	見守り出来る方、自らが清潔にしたいとの気持ちのある方などには、会話などしながら自尊心の尊重を心がけ洗い残しなどのない限りご自身で行っていただいている。入浴の前に体調確認や声かけをして気持ちに寄り添った介助を行っている。	週2回、午前中の中の入浴としているが、特にそれ以上の入浴の要望はない。家族から届いた柚子を入れたり、アヒルの人形を浮かべたりして、リラックスして入浴を楽しめるようにしている。利用者とのコミュニケーションの場ともなっている。リフト浴は2名が利用しており、安全に対応ができています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	会話、テレビ鑑賞などそれぞれの好み、個々の体調不良などに注意しながらその時々で対応している。体位変換が必要な方にはバスタオルを用いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の周知はもちろん、服薬時の誤薬防止として職員間で声かけ、また配薬された方、服薬された方など複数人での確認を行っている。また個々の体調に留意し、職員訪問看護師との連携により服薬支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	節分、小正月などその時々季節の行事の時も子個々の機能にあった役割をすることによってより楽しい時間を過ごしていただいている。		

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム 椋内

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナのため、外出支援は行っていない。	新型コロナ感染症が拡大していることもあって、日常的な外出を控えており、外出は通院時に限られている。前回の自己評価後に目標達成計画を立てて、感染症の時期以外は外出を楽しめるようにしていたが、コロナ禍のため、まだ取り組めていない。これから暖くなる時期を迎えることもあり、感染症の状況を見ながら外出支援を検討している。	周辺は人家が少なく、自然が広がっているため、コロナ禍の中でも、感染防止に配慮しながら散歩やドライブに誘うことなどの対応を期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを預かり買い物を見せて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月利用者様のご家族に日々の生活の様子を手紙にして送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地の良い生活ができるように季節感のある飾り物を行ったりしている。	食堂・リビングは、吹き抜けになっており、明るく開放的な空間が確保されている。パネルヒーター、エアコン、加湿器で、温度や湿度の管理に注意が払われている。テレビが2台設置されており、季節の花や写真などが飾られ、利用者は、テレビを観たり、新聞を読んだり、洗濯物を畳むなど、それぞれが思い思いに居心地よく過ごすことができるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の意思を出来るだけ尊重して居室で過ごしたいときには居室でまたホールで過ごせるように柔軟な対応を図っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時に使用されたいものや写真を居室に置いている。	居室には、ベッド、パネルヒーター、タンスが備えられている。利用者は、寝具や馴染みの物を自由に持ち込み、愛用のラジオ、時計、家族の写真、自分で作った作品などを飾り、居心地が良く、安心して過ごすことのできる居室になるように配置している。	

令和 3 年度

## 2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 檜内

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口の扉に名前入り写真を張って、自分の居場所として安心してもらえるようにしている。		